

2017年度 JES We Can 支部活動の報告

◎:支部代表、○:報告者、(新):新委員

[北海道支部 第17回北海道支部学術集会]

開催日 : 2017年11月5日(日)
会場 : 札幌プリンスホテル国際館パミール(札幌市)
会長 : 東 寛(旭川医科大学小児科学講座)
企画 : 女性医師専門医育成・再教育プロジェクト(新:男女共同参画推進委員会)
”JES We Can 企画セミナー”
講演タイトル:SGA性低身長の原因検索
演者:中村 明枝(北海道大学病院 小児科)
座長:村下 眞理(医療法人 むらしたこどもクリニック)

年々増加傾向にあるSGA性低身長症の原因の中でもインプリンティング異常症、特にシルバーラッセル症候群、テンプル症候群を中心に、最新の研究内容を御講演いただきました。中村先生は国立成育医療研究センターでの国内留学を経て、2017年4月より北海道大学病院小児科助教、内分泌グループのチーフに御就任され、若手女性医師リーダーとして北海道での活躍が期待されます。

委員:◎滝山由美、○村下眞理

[東北支部 第35回東北支部学術集会]

開催日 : 2017年4月15日(土)
会場 : 良陵会館
会長 : 菅原 明(東北大学大学院医学系研究科 分子内分泌学分野)
企画 : 女性の内分泌学会会員が企画するセミナー
講演タイトル:「甲状腺眼症の診断と治療」
演者:井上 吐州(オリンピア眼科病院)
座長:桜井華奈子(仙台医療センター 内分泌代謝内科)

2017年度の東北支部学術集会では、オリンピア眼科病院 院長の井上吐州先生をお招きして、「甲状腺眼症の診断と治療」について御講演いただきました。甲状腺眼症は、多くの内分泌内科医が遭遇する疾患ですが、眼科の先生から直接御講演いただける機会は少なく、大変貴重な機会となりました。本セミナー開催につき、サポートしていただきました会長の菅原先生にはこの場を借りまして御礼申し上げます。

東北地方では新任委員として石亀敬子先生を迎え入れることに致しました。若い世代の先生方の意見を取り入れながら、頑張っていく所存であります。

委員:◎○桜井華奈子、(新)石亀敬子、高橋郁子、羽田幸里香、緑川早苗

【関東甲信越支部 第18回関東甲信越支部学術集会】

開催日：2017年9月8日（金）～9日（土）

会場：ホテルメトロポリタン高崎

会長：山田 正信（群馬大学大学院医学研究科 内科学講座 内分泌代謝内科学分野）

企画：女性医師研究支援企画 「JES We Can 企画」

講演タイトル：「私たちのキャリアデザイン～女性医師・研究者の現状と問題点を年代別に考えよう～」

演者：中島 康代（群馬大学大学院医学研究科 内科学講座 内分泌代謝内科学分野）

會澤 美和（東京女子医科大学 前期研修医）

土岐 明子（群馬大学大学院医学研究科 内科学講座）

福田いずみ（日本医科大学付属病院 糖尿病・内分泌代謝内科）

座長：片井みゆき（東京女子医科大学 総合診療科/女性科（総合内科））

山口 実菜（平塚共済病院 内分泌代謝科）

60分のセッションの枠の中で、まず中島康代先生より研究テーマである原発性アルドステロン症における遺伝子解析とその病態についてのご講演があり、引き続き産休・育休期間を経て大学院修了に至ったご自身の体験をお話いただきました。群馬大学内分泌代謝内科学講座では女性医師支援に力を入れ、現在教室に所属されている医師の約30%が女性であること、女性医師支援に関する具体的な内容を教室のホームページに詳しく掲載しており、外部の女性医師からもホームページを閲覧しての問い合わせがあることなどもご紹介いただきました。

前期研修医の會澤美和先生からは、まもなく専門領域を決定する立場から新専門医研修制度開始にまつわる疑問、不安を率直にお話いただきました。

土岐明子先生は子育て真最中でありながら大学勤務を両立している現在の心境について発表され、最後に私(福田)からはこれまで自身が辿った道のりと若手医師に向けたメッセージを述べました。

本企画は若手の女性医師に向けての応援というコンセプトでしたが、当日は伊藤裕理事長、森昌朋先生、山田正信先生など大御所の先生方が聴講して下さり、かつコメントを下さるといふ、勇気づけられる展開となりました。

最後になりましたが、11:20～12:20 というゴールデンタイムに本企画を組み入れて下さった会長の山田正信先生に深謝申し上げます。

委員：◎鈴木(堀田)眞理、小澤直子、片井みゆき、方波見卓行、田島敏広、田辺晶代、中島康代、波多野雅子、○福田いずみ、藤田 恵、堀川玲子、山口実菜

【北陸支部 第17回北陸支部学術集会】

開催日：2017年11月3日（金・祝）

会場：福井県医師会館

会長：一二三 宣秀（木村病院 院長）

企画：「JES We Can Hokuriku 企画セッション」

I. ～一般臨床医のための～内分泌症例セミナー（日本医師会生涯教育講演会①）

表彰式進行 臼田 里香（富山県リハ病院・こども支援センター）

竹下有美枝（金沢大学附属病院内分泌代謝内科）

優秀賞授与式 一二三宣秀会長から表彰状ならびに賞品（旅行券）

受賞者 権藤 侑子先生

（金沢大学大学院医薬保健総合研究科 循環病態内科学）

受賞講演 座長 中川 淳（金沢医科大学 糖尿病・内分泌内科）

吉澤 都（黒部市民病院 糖尿病内分泌内科）

受賞演題

『無痛性甲状腺炎による甲状腺中毒症とJ波症候群を伴った心肺停止の一例』

II. ランチョンセミナー（日本医師会生涯教育講演会②）（第一三共株式会社共催）
 座長 唐島 成宙（金沢大学附属病院内分泌代謝内科）
 演者 長瀬 美樹（杏林大学医学部解剖学教授）
 演題 『アルドステロン、メタボリックシンドロームと食塩感受性高血圧』

本企画4回目となる2017年7月1日、一二三当番会長が院長を務められている木村病院において、北陸支部副支部長・金沢医科大学 糖尿病・内分泌内科の中川淳先生の進行かつ指導のもとに事前審査会を行いました。北陸3県から医師が集まり（写真）茶菓を片手に内分泌臨床の考え方をブラッシュアップし合いました。また今回は JES We Can 東海から静岡赤十字病院村上雅子先生にご参画いただき貴重なコメントを頂戴することで例年よりもさらに活発で魅力的な会となりました。優秀賞に輝いた研修医2年生、権藤侑子先生は今後内分泌・代謝学を専攻され益々活躍されていくことでしょう。

11月3日の学会当日は優秀賞授与式と受賞講演、学会ランチョンセミナーでは活躍する女性医師の代表のお一人である長瀬美樹教授のご講演を賜りました。また一般講演の座長にも多くの女性専門医が起用されました。ティータイムセッション『今そこにある内分泌・代謝疾患』では村上雅子先生がご経験をもとに実臨床現場での内分泌診療について具体的症例をもとにわかりやすくお話いただき若手医師の臨床力の向上にご協力いただきました。

ハーブティーやアロマなど当番会長のご尽力により女性への心配りが十二分に感じられる思い出深い学会となりました。長年支えていただいている中川淳先生、そして今回女性医師のバックアップへと随所に工夫いただきました当番会長の一二三宣秀先生、その他ご支援いただきました村上雅子先生はじめご参画いただきました多くの皆さまに紙面をお借りして心より御礼申し上げますとともに、女性医師一人一人が内分泌・代謝領域の学問と医療に邁進し、北陸そして全国に向けて活躍されますように、引き続き JES We Can として支援していきたいと考えています。

委員：◎○白田里香、竹下有美枝

2017/7/1 福井県あわら市

第17回日本内分泌学会北陸支部学術集会女性医師企画
『～臨床医のための内分泌症例セミナー～』特別賞

事前審査会

日時：2017年7月1日（土）13:00～17:00
（開会式・授賞式は別室にて同時進行）
 場所：福井県 木村病院 6Fホール
 あわら市北金津第57号25番地
 TEL(0776)73-3323

座長：金沢医科大学 糖尿病内分泌内科学 中川 淳先生
 コメンテーター：静岡赤十字病院糖尿病・内分泌代謝科 村上雅子先生



1. ニホルマブ投与後にACTH単独欠損症を発症した1例
石川県立中央病院糖尿病内分泌内科 藤馬由衣
2. 下垂体機能低下症およびSIADHを呈した視床下部腫瘍が5年後、
中枢神経系原発悪性リンパ腫と診断された1例
金沢医科大学糖尿病内分泌内科 藤井瑞枝
3. 浸潤性でオクレオチド抵抗性を呈したGH産生腫瘍による先端巨大症
症例に対する術前バシオチド・ファーストのインパクト
金沢大学附属病院内分泌代謝内科 海古井由佳
4. ハセドウ病母体児に認めた巨大甲状腺腫の推移を観察し得た1例
富山県立中央病院内科(内分泌代謝) 田中彰子
5. 無痛性甲状腺炎による甲状腺中毒症と波状候群を伴った心臓停止の1例
金沢大学医療保健学総合研究科循環器病態内科学 権藤侑子
6. 白血球、血小板減少を合併した粘液水腫昏睡の1例
済生会富山病院内科 伊藤みか
7. 偶然発見された副腎腫瘍に増大傾向を認め、摘出し副腎血管腫と診断
された1例
浅野川病院内科 高橋智子
8. 副腎腫瘍の画像診断において褐色細胞腫が疑われたが、病理学的に
副腎腺腫と診断された1例
富山大学第一内科 中嶋歩

第17回日本内分泌学会北陸支部学術集会
日本内分泌学会男女共同参画推進委員会(JES We Can) 北陸支部

[東海支部 第17回東海支部学術集会]

開催日：2017年9月30日(土)

会場：愛知県産業労働センター ウィンクあいち

会長：鈴木 敦詞(藤田保健衛生大学)

企画：女性会員が企画するセミナー「JES We Can Tokai 企画セッション」

講演タイトル：下垂体腺腫の病理～腫瘍細胞を病理学的に考える～

演者：井下 尚子(虎の門病院 病理部)

座長：村上 雅子(静岡赤十字病院 糖尿病内分泌代謝内科)

本企画においては、初回以来、特別講演として甲状腺、下垂体、副腎各領域における第一線の専門家に講演を依頼して、参加会員の皆様と関連な討論を含め、参加会員の臨床内分泌学の理解に有意義なセッションにして参りました。今回はこれまでの講演では言及できなかった、内分泌病理、特に下垂体病理領域において、第一線で活躍の女性医師、虎の門病院 病理部 医長の井下尚子先生を招聘しました。他のホルモン産生腫瘍の治療と同様、特に下垂体腫瘍治療においては、その後の治療と予後に大きく関与する免疫組織診断、受容体発現の有無、などの病理診断の最新の進歩と知見につきご講演を頂きました。

本企画に対する参加会員からのアンケート結果では、31枚回収中、本企画に満足の回答28名(90.3%)で好評ながら、講演会に参加された会員は30名を遥かに上回り、アンケートを提出して頂けなかった会員が少なくとも半数以上と考えられました。31名の回答者内訳は専門医・指導医が多く、若手医師、非専門医からは回答が乏しく、この企画に対する評価は不詳となりました。今後の本企画の充実のためには当日のアンケートの依頼、徹底が課題と考えられました。

最後に、講師が内分泌学会員のため、最低の旅費のみで、招聘講演ながら講演謝金をお支払いできない現状につき、我々のみならず、当日の役員会でも議題になり議論されました。支部としても、出来るなら講師が内分泌学会員でもお支払い出来るようにすべきであるという意見もあるものの、現状の内分泌学会の規約では難しく、今後も引き続き課題とする方向になっています。他の支部での運用と対応、実情についても参考にし、今後本企画が、参加会員に期待される、より質の高い講演と企画を開催するために、役員、評議員の意見を仰ぎつつ、委員一同今後の発展に創意努力してゆきたいと考えています。

本学術集会会長の鈴木敦詞先生、講師の井下尚子先生、ご支援いただきました会計事務局の浜松医科大学 佐々木茂和先生はじめご参画いただきました多くの皆さまに心より御礼申し上げます。女性医師一人一人が内分泌・代謝領域の学問と医療に邁進し、東海地区から全国に向けて活躍されますように、引き続き JES We Can 委員会として活動していければと考えています。

委員：◎脇 昌子、赤羽貴美子、草田典子、東村博子、中嶋祥子、○村上雅子、山本眞由美

[近畿支部 第18回近畿支部学術集会]

開催日：2017年11月4日(土)

会場：大阪市立大学医学部大講義室

会長：稲葉 雅章(大阪市立大学大学院医学研究科 代謝内分泌病態内科学)

企画：JES We Can 企画セッション

講演：「女性医師の視点からみたより興味深い内分泌疾患」

演者：宮川めぐみ(虎の門病院 内分泌代謝科)

座長：加藤 純子(大阪府済生会茨木病院 内科(糖尿病・内分泌))

藤本 美香(近畿大学メディカルサポートセンター)

女性がかかえる多種・多様なストレスについてわかりやすく解説していただき、先生の医学部志望の契機から現在に至る出来事、ワーク・ライフ・バランスを図表や写真もまじえ華麗に微笑ましく提示いただき、診療のテイクホームメッセージも示していただきました。

委員：◎○加藤純子、浅原哲子、位田 忍、井上眞由美、島津 章、(新)新谷光世、(新)高橋路子、藤本美香、三浦晶子

[中国支部 第18回中国支部学術集会]

開催日：2017年8月26日（土）
会場：松江テルサ（島根県松江市）
会長：鬼形和道（所属：島根大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター）
JES We Can 企画

講演：専門医取得のために私はこうした
演者：原 孝行（岡山大学大学院 腎・免疫・内分泌代謝内科学）
宮原 直樹（鳥取大学医学部 周産期・小児医学）
折出 亜希（島根大学医学部 産科婦人科）
司会：栗岡 裕子（島根県立中央病院 産婦人科）

本年のJES We Can企画は‘専門医取得のために私はこうした’と題してそれぞれの科の専門医を取得した3人の先生に御講演を頂きました。試験をうけるにあたり、申請までの注意点、症例レポート作成のコツや参考資料などを提示していただきました。日々の臨床経験が大事であることが共通認識でした。同時に一般演題が並行しており、参加者が少ないのではないかと危惧していましたが、研修医の先生や指導医の先生にも多く参加していただき、有意義な企画となりました。

委員：◎栗岡裕子、三好智子、山内美香



[四国支部 第17回四国支部学術集会]

開催日：2017年9月2日（土）
会場：香川大学医学部キャンパス内 臨床講義棟2階
会長：村尾 孝児（所属：香川大学医学部 内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学講座）
企画：女性医師セミナー
「甲状腺機能検査の測定やその解釈による問題点」
演者：大江 秀美先生（伊藤病院）
座長：井町 仁美（香川大学医学部 内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学講座）

同門の大江秀美先生をお招きして、講演いただきました。普段疎かになりがちである検査の詳細な機序及びそれに関連する検査のピットホールについて教えていただき、大変勉強になりました。

また今回JES We Can企画とは別に、ランチョンセミナーに東海支部の静岡赤十字病院の村上雅子先生をお招きして『Weekly DPP-4 阻害薬の有用性; 連日製剤からの切り替え1年の経過 - CGMで見る1週間持続血糖管理を含めて-』で、ご講演をいただきました。村上先生の日常臨床にお

ける疑問に端を発する臨床研究のお話は、臨床における疑問をそのままにせず臨床研究を通じて解決に導く大切さを再認識するものでした。

通常四国支部の学術集会では、一般演題以外に女性医師セミナー、ランチョンセミナー、教育講演、特別講演の4つの講演がありますが、今回はそのうち2つが女性医師による講演となりました。

委員：◎◎井町仁美、吉田守美子

[九州支部 第17回九州支部学術集会]

開催日：2017年9月2日(土)

会場：九州大学医学部百年講堂(福岡市)

会長：井原健二(大分大学医学部小児科学講座)

企画：第2回 JES We Can 九州支部賞 受賞講演

座長 山本幸代

(JES We Can 九州支部賞選考委員/産業医科大学医学部 医学教育担当教員)

受賞論文

A case of teriparatide-induced severe hypophosphatemia and hypercalcemia

産業医科大学医学部第一内科学講座 元舞子先生

Thyroid follicular carcinoma in a fourteen-year-old girl with Graves' disease

九州大学病院小児科 石井加奈子先生

Quality of life in the patients with central diabetes insipidus assessed by Nagasaki Diabetes Insipidus Questionnaire

長崎大学病院第一内科(内分泌代謝内科) 野崎彩先生

平成28年度に創設し、今年度は第2回となる女性医師による優秀論文を表彰する「JES We Can 九州支部賞」の選考、表彰をおこないました。中里雅光九州支部長から表彰状と副賞の贈呈をしていただき、引き続き受賞講演をおこないました。今回は4名の選考委員による選考を経て、上記の3先生が受賞されました。いずれも英文での発表で、内2編は症例報告です。内分泌学における症例報告の重要性は論を待ちませんし、英文にするには多大な労力を要したと思われます。今後は、可能であれば基礎的研究から1編、臨床研究や症例報告から1編としたいと考えています。

委員：◎◎佐藤薫、明比祐子、三宅育代、山本幸代